

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立川越女子高等学校)

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱に組織的教育活動を展開して進学実績の向上を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む学校
--------	---

重点目標	1 <<学力の向上>> 生徒の学習意欲及び進路意識を喚起し、自学自習力の定着・維持に努め、真の学力の向上を図る。 2 <<人格の陶冶>> 「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた自立した生徒」を育成する。 3 <<開かれた学校づくり>> 関係機関との連携を更に深め、学校情報の積極的な発信に努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

参加者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 現状 2学期制、土曜授業、行事の精選等より授業時間確保に努めている。 授業相互参観・先進校訪問・予備校研修参加等、教員が常に学ぶ姿勢をもっており、質の高い授業が展開されている。 進路指導部と各学年等との連携を通した様々な取組により、生徒の進路意識の向上に努めている。 SSH事業や県の指定事業等を有効活用している。 課題 自学自習を推進し、生徒自身の取組状況の向上を図る。 より高みを目指す進路意識の啓発を行う。 高大接続の流れを踏まえながら、教科間連携を視野に入れた授業を組織的に取り組む。 SSH、県指定の事業等を効果的に活用し、学校全体で事業を推進、実施する。 	1 生徒の可能性をさらに伸ばすことが課題であるため、より質の高い学びのために、計画的・自主的な学習をさらに推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ①定期考査等の実施前後に各自の課題に基づいた目標設定と学習計画作成、振り返りを行わせる。 ②ICTを活用した教科指導を促進し、質の高い学びができる環境の提供とサポートを行う。 ③教科間連携授業を積極的に取り組む。 ④自学自習力向上の為に、シラバス、学習OT、スタディサポートや進学課外補習、学習室開室、出張講義、図書館利用促進する。 ⑤教員授業相互参観や指導力向上セミナー参加等、授業の質を向上、自主的学習支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全生徒が課題を把握し、目標設定と計画的な学習ができたか。今後の目標設定に繋がれたか。 ②通年でICT環境の整備、質の高い学びができたか。 ③ICT機器の利用が昨年度より増加したか。 ④全教科で教科間連携実施し、昨年より増えたか。 ④年間を通じて、左記の方策を計画的・効果的に実施し、生徒の自学自習力を高める学習環境の提供とサポートができたか。 ⑤教員の授業力向上のための取り組みのサポートが年間を通じて計画的・効果的に実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③④年度当初よりICTをフル活用する状況となり、環境の整備や利用は増加した。また、各学年ともにGoogle Classroomを利用してHRや健康観察等有効な活用ができた。生徒との面談も重ね、進路や目標の構築ができた。制限の多い中、可能な範囲で方策を講じ、生徒の支援を行えた。 ⑤冬季のみの実施となったが、教科指導力向上セミナーへの参加、教員相互授業参観、「未来「学び」」研究授業を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ精神旺盛な生徒が多く、自主学習にも意欲的に取り組んでいるが定着には個人差があるため、継続して面談等を通じ指導していく必要がある。引き続き生徒の自主学習を向上させるため面談等を継続して行う。 今後もICTの活用やそのための整備が必要となってくるため、引き続きICT環境の整備・利用方法の共有を進める。 	
		2 保護者との連携がまだ、完全なものではないため、さらに保護者と連携を深め、国公立大学、難関私立大学、医学部を目指す進路意識の啓発を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者のための進路勉強会や面談等を通じて適切な情報の発信、学校と家庭の両方で生徒の進路意識を高める。奨学金募集のガイドラインや選考方法を検証し、支援する。 ②選択科目の希望調査の時期・方法について、希望実現のため、計画に沿った適切な指導を行う。 ③高大接続及び研究所等と連携し、成果を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年間を通じて適切な時期に適切な進路情報を発信し、学校だけでなく家庭においても生徒が進路を考える環境を作れたか。 ②3学年の80%の生徒が年度当初の高い進路希望を継続させ受験に臨めたか。また、国公立100名以上、難関私立大学80名以上の合格を達成できたか。 ③大学と連携する課題研究生徒を増やせたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路勉強会については、会場開催ができず、情報の提供として、進路指導部より保護者へ資料を送付した。 ②国公立大学第一希望者の割合：220名 56% (48.5%)、早慶上理・医学部第一希望者の割合：87名 22% (25%) (〇内は昨年度同期の割合) で昨年度と比較して国公立大学の希望者が伸びている。 ③実施減により、増加には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路勉強会については、会場開催ができず、情報の提供として、進路指導部より保護者へ資料を送付した。 ②国公立大学第一希望者の割合：220名 56% (48.5%)、早慶上理・医学部第一希望者の割合：87名 22% (25%) (〇内は昨年度同期の割合) で昨年度と比較して国公立大学の希望者が伸びている。 ③実施減により、増加には至らなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携は、生徒自身の早い時期の進路意識の向上には不可欠である。また、共通テストへの不安が拭えない生徒もいた。 各教科で共通テストの分析を行った内容をもとに研修会を実施し、次年度へ向けて授業内容を充実させていく。保護者への発信をより一層行い、相互理解を深めていく。
		3 SSH事業第4期申請に向けて様々な体制の構築が必要であり、県指定事業内容等、積極的な情報提供を行い、学校全体で推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ①SSH事業や県指定事業について、必要に応じて説明会を開催し、生徒にその内容や魅力が伝わるような情報の発信の工夫をする。 ②学校設定科目、サイエンス教室等を推進する。また、外部企画事業への積極的参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒に告知した事業への参加率が1・2年90%、3年80%以上であったか。 ②サイエンス教室等本校企画事業への参加者数が昨年度より増加したか。また、外部企画の事業に参加する生徒が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①サイエンス教室は9月から実施した。参加者多数の場合は、2回実施し、申込者全員が参加できるよう配慮した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> SSH事業については、運営指導委員会・学校評価懇話会等による助言から課題を明確にして取り組んでいる。今後、第4期申請が大きな課題であるため、SSH事業を計画的に生徒・教員が丸となって取り組む。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 現状 多くの生徒が多様な活動に自主的かつ積極的に取り組み、充実した高校生活を送っている。 教育相談体制が整っている。 課題 将来、あらゆる分野で活躍するリーダーを育成する。 部活動指導方針を踏まえつつ、部活動の充実を図る。 支援の必要な生徒に対し、迅速かつ適切に対応する。 	1 生徒の視野をさらに広げることが課題であるため、外部講師の活用や海外プログラムへの参加を積極的に進める。	<ul style="list-style-type: none"> ①SSH事業に基づき、英語プレゼン講座、外国人研究者による講義、海外プログラムを開催し、情報を適時に効果的に提供し、生徒の参加を促す。 ②大学や研究機関、企業などから講師を招き出張講義を年3回開催する。 ③進路講演会の充実を図り、生徒の進路意識を向上させ、進路選択の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①適切に広報できたか。広報した事業の9割程度に生徒が参加しているか。 ①英語プレゼン講座、外国人研究者による講義、海外プログラムを実施できたか。 ②③魅力的な内容の出張講義を開催し、生徒の知的好奇心を刺激できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①海外研修は中止となったが、SSH実施事業・行事は11回実施した。出来る範囲で実施し、生徒への広報活動ができた。 ②例年より遅い時期となったが10月11月に実施し、65名の生徒が参加した。 ③Google meetによる講演等の工夫をして、出張講義を実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 出来る範囲での実施となった今年度ではあるが、それぞれの事業は、参加生徒に刺激となっている。今後も実施方法も考えて、生徒に魅力ある事業を企画し、人選等に力を入れていく。 	
		2 生徒の豊かな人間性をさらに育てるために、計画的・効果的な学校行事・部活動の実施により、互いを尊重できる豊かな人間関係の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事・部活動で、人間的に成長できるように適切な課題を設定し、達成の支援をする。 ②SSH事業の科学系部活動を積極的に推進する。 ③生徒会、各実行委員会の生徒との報告、連絡、相談を密に取り学校全体の連携を図り、生徒の活動への支援、協力体制を作る。 ④支援が必要な生徒を早期に把握し、家庭、養護教諭、カウンセラー等と連携して支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒がそれぞれの立場で自覚し、適切な課題の設定と支援ができ、行事後のアンケートや、学校評価で、80%以上が行事や部活動に満足しているか。 ②課題研究の発表など成果を広く普及できたか。 ③学校行事を生徒の人間性育成に向けた学校全体の教育活動として取り組むことができたか。 ④支援が必要な生徒の早期に把握、家庭や外部専門機関等と連携し、個々に応じた支援が行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度は、行事後の満足度を確認できなかったが、生徒それぞれへの課題設定と支援は行えた。 ②全国web開催の課題研究発表会SSG1の生徒が参加した。 ③体育祭の延期・文化祭の中止の中、生徒の自主自律を育み、また伝統を継承するために可能な行事を一体感を持ち取り組めた。 ④スクールカウンセラーによる教育相談を20回実施した。健康観察への対応等個々に応じた支援ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部・各行事の実行委員会共に連絡を徹底し資料や進捗状況の共有化、スムーズな運営を行えている。Google Classroomの活用、ホームページの活用等改善の余地があるので、今後、情報アップデートの向上を図る手立てを考案していく。 毎日の検温・健康観察報告は、有効であった。今後も継続し、さらに支援できる環境作りを行う。 	
		3 保護者、学校、外部機関等と連携しながら生徒支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ①情報モラルの向上の為に講演会等を行う。 ②PTA、後援会、体育・文化振興会等を通じて、適切な生徒支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の意識向上が図れる講演会等ができたか。 ②各種行事、部活動の実施が円滑に行われたかを確認し、次年度につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①時期が遅れたが予定通り実施できた。 ②PTAの参加行事の中止が多かったが、消毒液の補助等、密な連携で支援が行えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル向上の意識向上は図れている。方法を含め、継続実施していく。PTAとの連携は今後も不可欠であり、密な連絡を取り合っていく。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 現状 SSH事業を生かし、小学校、中学校、大学等と連携を深め、特色ある教育活動を積極的に発信している。 課題 本校の良さをさらに情報発信する。 地域への貢献を継続する。 	1 本校の特色ある教育活動の十分な理解を深める課題に対し、積極的に広報・公開する。特に部活動のホームページの更新を迅速に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者対象の土曜授業公開の周知、連絡を組織的に行う。また、学校説明会で広報を行う。 ②各部活動や各部署の担当等と連携し、ホームページの更新や新たな活用を積極的に促す。 ③体育祭や紫苑祭では、安全、安心を第一に、来校者へPRと感動を与えられるように指導、支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者へ確実に周知し、総務部等との連携を図り、有意義な広報活動となったか。 ②ホームページの更新回数が増えたか。また、新たな活用が行えたか。 ③行事の安全が図れ、紫苑祭の来校者が昨年度程度の数を達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者対象の公開授業が中止となったが、学校説明会を1日に4サイクルという工夫で実施し800名以上の参加があった。HPのweb学校説明会へのアクセスは838回であった。 ②例年と異なり、広報的な活用はもとより、情報伝達の大きな役割となった。改めて活用等への認識が高まった。 ③今年度、紫苑祭は中止となったが来年度以降の運営が円滑に行われるように委員会の引継ぎをしっかりと行えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会や公開授業等は、保護者・中学生・地域への情報発信として可能な限り実施している。今後は、従来の開催を計画しつつ、今年度の経験を生かせるような体制を作っていく。 	
		2 市内の小中学校への学習支援等を行い地域に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ①市内の小中学校学習支援ボランティアの募集をし、生徒の積極的な参加を促す。 ②近隣小学校での実験教室、クラブ活動支援、川越市内児童対象の冬休み科学教室を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各事業にのべ数十名の生徒が参加したか。 ②本校生・中学生双方にとって有意義な活動となり、地域へ貢献できたか。 ②近隣小学校クラブ活動支援、川越市内児童対象の冬休み科学教室を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②今年度は、すべて中止となったが、来年度以降の実施に向けて、関係小中学校と連携を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 市内・近隣小中学校との交流は、双方にとって効果的な行事である。今後へ繋るために情報交換をさらに進め、より一層の連絡を取り合っていく。 	

コロナ禍で感染防止対策が大変な状況でも、生徒の授業に関するアンケート等から、授業の維持が十分になされてきたことが伺える。教員相互で授業の質の向上に努めていることを高く評価する。

先生方が心をひとつにして、出来る範囲で取り組んでいる様子がわかり、心強く思っている。

今後の進路指導を行う上で、生徒の進学先への満足度や納得度も併せての調査について検討していただきたい。

ICTの活用が増え、学校や家庭の環境整備が求められており、さらに充実させる必要がある。

行事を大切にしている高校であるため、行事の中止は、本当に残念であったと思うが、出来る範囲で先輩から先輩への引継ぎも行われ、生徒の自主的・自律的・主体的な活動がコロナ禍でも大切にされたことを評価したい。

LHRの討論のまとめには、生徒の緊張感と、この状況下でも意欲的で活力に満ちたエネルギーを感じた。

ICT関係の環境整備には労力と費用がかかるが、PTAや後援会等の協力も得て、ICT関係の環境整備を行い発展するよう期待している。

コロナ禍の中で、保護者と学校との交流ができなかったと思われたが、HP等を通じて保護者との連携を実現していたことを評価したい。普段からの関係がこういう状況で生かされるので、今後も期待したい。